

アドバイザーボード委員・オブザーバーからの提案等による復興計画への反映一覧

資料 2

(1) 全般分

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
1	・復興計画の5つの柱について、国や県との連携を考慮すべき。	・復興計画(素案)については、国の支援制度を踏まえるとともに、県の復興計画との整合性も図ったものとして作成しています。	高山委員
2	・復興計画の基本的なスタンスとして、復興の主体は行政でなく、住民や地域、自助や共助の復興であることを示すべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・復興計画策定の趣旨に「市民・地域・行政が一体となって」の文言を追記しました。 【P2】 ・計画の期間に「住民の意向を確認しながら」の文言を追記しました。 【P3】 ・住民・地域・行政が「未来につながる復興」を推進する主役である旨を明記しました。 【P6】 ・冒頭説明分に「住民の意向を確認しながら」の文言を追記しました。 【P9、P12】 ・復興計画の推進に向けてに「復興にあたっては、地域住民の意向を把握し、地域の特性を十分に踏まえた将来像を描くことが必要になります。」の文言を追記しました。 【P27】 	三浦委員
3	・復興事業に際しては石川県との連携が不可欠であることから、復興計画及び実施計画の策定に際し、復興プランを視野に入れた実施時期や内容の整理が必要と考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「なお、国や県との連携、復興の検証及び社会や経済の情勢、変化等に応じて、必要な見直しを行うこととします。」の赤字部分を追記しました。 【P3】 	長野県
4	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施策について、どこの部署が責任をもつか明確にするとよい。また、外部機関についてもどこと連携していくか明確にすべき。 また、地域や各種団体が主体となり行う取組を示すことが出来れば、より良いものと思われれます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復興計画の各ロードマップを修正し、担当部署や関連団体などを盛り込みました。 	長野県
5	・施策の進捗管理を行うロードマップは施策ごとに記載されているが、施策間の連携もあるため、その点も念頭に作成すべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・施策間で連携すべき施策については整理し、終期の整合性を図るとともに、今後作成する実施計画でも考慮していきます。 	三浦委員
6	・計画をどのような体制で進めていくのか、市民にわかるようにすべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業の進捗管理と体制については、具体的な取り組みをまとめた実施計画で示す予定です。 	長野県

(2) 柱1 暮らしの再建

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
1	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅を退去しなければならない2年後が、将来への不安から命を絶つケースが増えると想定されるため、注意しなければならない。 ・仮設住宅に保健師やケアマネージャーなどを派遣し、被災者のケアを考慮することが必要。 ・建設型応急仮設住宅に関して、訪問看護や外出支援活動も含め、包括的なコミュニティの維持の観点が必要。 ・応急仮設住宅に居住する方や高齢者世帯は孤立する傾向が強いことから、復興を進める上で見回り支援など寄り添う形のケアが必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3②「仮設住宅入居者の入居及び退去後の孤立感解消等のため、人と人とのつながりに仮設住宅団地内のネットワーク形成支援を行い、心のケアと心の健康度向上の取り組みを実施するほか、見守りや訪問支援、外出支援などの一人ひとりに応じたきめ細やかな支援を実施します。」の文言を追記しました。 【P9】 	角田委員 松田委員 三浦委員 長野県
2	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの再建について、要配慮者として、難病患者や乳幼児、妊産婦、外国人も想定するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3③「高齢者・障がい者・妊産婦・外国人等の何らかの支援が必要な要配慮者には、直接訪問による精神保健活動（アウトリーチ）等を実施します。」の文言を追記しました。 【P10】 	三浦委員
3	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防について、具体的施策を盛り込むべき。 ・また、芸術・文化を生かして癒しの心と体のケアにつなげることは考えられないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3④「通いの場等の身近な地域での活動の場の確保や、多様な活動を支援し、地域活動や生涯学習、スポーツ活動など多様な場への社会参加を促すことで、身体活動や食欲の低下も含めたフレイル予防に取り組みます。」の文言を追記しました。 【P10】 	三浦委員
4	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの心のケアについて、保育士がどのような対応をするべきかなどを含む人材育成をするとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3⑤「こどもの心のケアのため、精神保健福祉士等による市内の保育施設での訪問による心のケアを行うとともに、医師、心理士等の専門職による講座を実施し、保育士への助言を行うことで、こどもたちの健全な心の成長と、保護者の子育ての不安の解消を図ります。」の赤字部分を追記しました。 【P10】 	角田委員

(3) 柱2 住み続けるふるさと(地域)を再生する

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
1	<ul style="list-style-type: none"> 液状化被害が深刻であることを踏まえ、液状化の項目を設けるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 1②「宅地の液状化被害等からの復旧を支援するとともに、液状化被害が深刻な地域については、国の技術的・財政的支援を受けながら、道路などの公共施設と宅地の一体的な整備を検討します。」を記載しています。 【P12】 	宮城県栗原市
2	<ul style="list-style-type: none"> 被災者を空き家などを活用して羽咋市に呼び込んでいくことが必要。 空き店舗の活用もすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 2②「これまで特に移住者の受け皿としていた市内の空き家や空き店舗について、被災者も利活用できるようマッチングを図るとともに、良質な空き家・空き店舗の確保に取り組みます。」の赤字部分を追記しました。 【P12】 	坂室委員 三井委員
3	<ul style="list-style-type: none"> 神社、会館、墓の復旧に対する補助の検討を。 	<ul style="list-style-type: none"> 3①「地域のコミュニティ活動の場となる集会施設等の早期復旧に向けて、再建や改修等に要する地区の費用負担の軽減を図ります。」、②「祭礼など地域のコミュニティの場として長年利用されてきた、神社などの施設の再建に要する地区の費用負担の軽減を図ります。」を追記しました。 【P13】 	藤岡委員
4	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアが奥能登から金沢へ向かう途中に、必ず千里浜に立ち寄っていることから、交流人口の拡大につなげ、復興のモデルケースとするよう取り組んでほしい。 地震前以上の交流人口の拡大につなげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 4①「市内外からのボランティア等をはじめとする、被災支援を通じて生まれた都市部人材とのつながりを継続・発展させることで、新たな関係人口や交流人口の創出と拡大に取り組み、地域の活性化等につなげます。」を記載しています。 【P13】 	杉本委員 三井委員 松田委員
5	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアムいしかわなどを活用して大学生など若者の力を借りることも盛り込んではどうか。 県内外の大学などの学生の学修や研究を介したにぎわいや人材交流の場の創出を行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 4②「都市部や大学等との共創や、首都圏での移住・交流PRイベントを積極的に開催することで、新たな人の流れの創出に努めます。」における赤字部分を追記しました。 【P13】 	三浦委員
6	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育のほか、将来の復旧・復興の担い手育成のための郷土愛教育を育むべき。 若者の地元定着のためや郷土愛を育てるため、郷土教育の拡充を。 	<ul style="list-style-type: none"> 5①「地域の課題解決について考えるふるさと教育を充実させ、被災経験も含め、羽咋の良さを再認識することで、児童生徒のふるさとへの関心と郷土愛を高める。」を追記しました。 【P13】 	三浦委員 番匠委員

(3) 柱2 住み続けるふるさと（地域）を再生する

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
7	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術・文化による癒しの心と体のケアは考えられないか。 ・体験型震災学習を市民以外に広げることによる誘客の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5②「地域の伝統や文化（文化活動、文化財等）を、デジタルコンテンツ化により記録に残すことで消滅を予防し、さらには市民に広く周知することで、郷土愛を高め、新たな地域振興を目指します。」、6③「「地域の宝」、「地域の心」である文化財の修理・修復を進めるとともに、復興のシンボルとして妙成寺の国宝指定に向けた文化財保護の機運を高め、地域の活性化に取り組みます。」、6④「妙成寺や折口信夫等の地元の文化財等の魅力の掘り起こしを行うとともに、現地体験型のイベント等を通じて、交流人口の拡大と文化的な復興を目指します。」を追記しました。 <p>【P13】</p>	三浦委員

(4) 柱3 地域経済を復興する

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
1	<ul style="list-style-type: none"> 被災した事業者について、今後も相談を受け付け、廃業に至らないフォローアップをすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 1②「商工団体等と連携し、被災事業者の事業復旧・継続に向けた支援相談窓口を設置するとともに、県などと連携して各種助成制度の円滑な活用と補助申請の支援に取り組みます。」を記載しています。 【P15】 	坂室委員
2	<ul style="list-style-type: none"> 地域計画の利活用の観点を盛り込んでどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 2③「多様な担い手づくりへの取組として、地域計画を活用し、認定農業者の確保や地域農業の中核となる農業者の育成等を支援します。また、新規就農者の育成と定着を図るため、継続して支援する取り組みを進めます。」の赤字部分を追記しました。 【P15】 	吉田委員
3	<ul style="list-style-type: none"> 邑知瀉周辺の状況を鑑みた施策について。 	<ul style="list-style-type: none"> 2⑤「邑知瀉周辺の農地の集積・集約化、大区画化を実施します。」を追記しました。 【P15】 	吉田委員
4	<ul style="list-style-type: none"> 漁業・林業に関する施策を追加すべき。 林業に関して、Jクレジットの導入を検討できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 2⑥「森林資源の維持向上を図るため、間伐などの森林の適正な整備を推進するとともに、Jクレジット制度の検討を行い、地域林業の活性化やゼロカーボン、温室効果ガスの削減を目指します。」、2⑦「水産資源の維持向上を図るため、種苗放流の実施など地域資源の拡大、ブランド化や新たな付加価値を生み出し、安定経営を支援します。」を追記しました。 【P16】 	三浦委員
5	<ul style="list-style-type: none"> 朱鷺やコウノトリとからめた環境保全型農業と高生産農業との共存を図る施策を展開してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 2⑧「邑知瀉周辺の豊かな自然環境を守るとともに、朱鷺やコウノトリの住める自然豊かな環境づくりに取り組みます。」を追記しました。 【P16】 	吉田委員
6	<ul style="list-style-type: none"> 能登をPRするチャンスなので、SNSを活用して「いま行ける能登」を宣伝すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 3①「観光産業の再生のため、県や関係団体との連携、SNSの活用等により能登の魅力発信や誘客促進のほか、多様なニーズへの対応を強化して、新たな観光客の誘致を行います。」の赤字部分を追記しました。 【P15】 	三井委員
7	<ul style="list-style-type: none"> 体験型震災学習を市民以外に広げることによる誘客の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 3③「今後増加が見込まれる外国人の誘客に向けたインバウンド観光の強化として妙成寺や気多大社等の文化観光施設を活用した高付加価値で持続可能な文化観光地域づくりを推進します。」の赤字部分を追記しました。 【P16】 	三浦委員

(4) 柱3 地域経済を復興する

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
1	<ul style="list-style-type: none"> 復興の担い手確保の観点から、若者の定住支援、雇用確保を明記するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 4②「新たな起業や事業承継により事業を継続しようとする事業者を支援することで、市内の雇用やU・I・Jターン等の契機と魅力ある「しごと」を創出し、若者の地元定着を図ります。」を追記しました。 【P16】 	宮城県栗原市
2	<ul style="list-style-type: none"> 地元特産品の販路拡大のため、ITを活用した販売購入のウェブプラットフォームの導入支援はできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 5②「都市部で開催する物品フェア等でPR活動を積極的に行い地元特産品等の周知を図るほか、ITを活用したウェブプラットフォームの導入支援等により販路拡大と経営の安定化、雇用の維持を支援します。」の赤字部分を追記しました。 【P16】 	三浦委員
3	<ul style="list-style-type: none"> LAKUNAはくいで随時イベントを開催するなど、明るい話題を提供すべき。 LAKUNAはくいのイベント実施について商工会などの関係機関にも共有すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 6①「賑わい交流拠点「LAKUNAはくい」を中心に、民間事業者や関係団体と連携しながら、復興支援イベントを開催し、地域経済の復興と交流人口の拡大を目指します。」を記載しています。 【P16】 	三井委員 坂室委員

(5) 柱4 インフラを迅速に復旧・強靱化する

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
1	<ul style="list-style-type: none"> インフラの迅速な整備について、国や県と連携し事業のスケジュールや展開の調整を図るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 1①「国・県と連携しながら、道路や橋梁・河川の迅速な復旧を図るとともに、将来の災害に備えて液状化対策を含めた機能強化や耐震化の展開を進めます。」をの赤字部分を追記しました。 【P19】 	太田委員 宮城県栗原市
2	<ul style="list-style-type: none"> 大津波警報時に対応できる災害に強い計画とすべき。 このたびの大津波警報による渋滞を踏まえた道路整備を行うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 1②「災害に強い道路網の形成や住民生活の利便性向上等に寄与する道路ネットワークの構築・整備について、国や県と連携し取り組んでいきます。」を記載しています。 【P19】 	杉本委員 藤岡委員
3	<ul style="list-style-type: none"> 公園の防災機能の強化を図るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 1⑤「地域住民の憩いの場である公園について、早期の公園機能の復旧に取り組むとともに、防災機能の強化を図ります。」をの赤字部分を追記しました。 【P19】 	三浦委員
4	<ul style="list-style-type: none"> 農業用パイプラインの液状化への早急な対策を盛り込むべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 2②「農業用パイプラインを早期復旧するとともに、関係機関と連携し再整備も含めて強靱化に取り組みます。」を追記しました。 【P19】 	吉田委員
5	<ul style="list-style-type: none"> 水の融通等の県道など、被災していても一部は水の供給ができるような工夫や設計思想が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 2③「農業用水の確保のため、農業用ため池や井戸、河川の水源地を融通できるよう関係機関と連携して取り組むとともに、農業用ため池の維持管理や防災対策を促進するため、管理者と連携して取り組みます。」を追記しました。 【P19】 	吉田委員
6	<ul style="list-style-type: none"> 防災に係る中継拠点として、道の駅などを活用すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 3④「道の駅のと千里浜」をはじめとする公共施設を、自衛隊、消防・警察の広域支援・民間支援団体等の拠点、近隣自治体が被災した場合には中継拠点としての活用し、協力体制の強化を図ります。」を追記しました。 【P20】 	太田委員

(6) 柱5 将来を見据えた災害に強いまちをつくる

No.	ご意見・ご提案	復興計画での取り扱い等 (赤字部分は追記・変更点)	提案者
1	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の震災に対応するため、避難所運営を任せることなどができるよう、住民の自助・共助の意識を高めてほしい。 ・自助・共助・公助の明記とともに、自主防災組織結成を促進すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1③「地域防災力の強化を行うため、住民の防災意識を高め、自助・共助・公助の協力体制の確立に努めるとともに、自主防災組織の積極的な設置及び訓練や防災イベント、連絡協議会での活動報告等の実施を推進するほか、地域の防災士の育成と支援を行います。」の赤字部分を追記しました。 【P22】 	宮城県栗原市 杉本委員
2	<ul style="list-style-type: none"> ・防災文化を育むため、または防災意識を高めるため、震災以降の保存・活用を考えていくのはどうか。震災遺構は人を呼び込むことにもつながる。 ・災害記録の有効活用を図るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1④「震災遺構（災害記録含む）を選定し、震災の教訓を後世に伝えるとともに、教育、観光等に震災遺構を活用した取り組みの実施を検討します。」を追記しました。 【P22】 	宮城県栗原市
3	<ul style="list-style-type: none"> ・輪島市では被災に伴う情報通信環境の確保が課題とされたことから、公共施設の防災機能向上についてはICT環境維持の観点からの整理も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・3②「情報伝達手段として衛星系インフラの確保やICTを活用したネットワークの構築等、情報の収集及び共有化のための環境整備に取り組みます。」を記載しています 【P23】 	長野県
4	<ul style="list-style-type: none"> ・避難体制の強化について明記すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4②「災害に関する記録や資料、対応状況等を収集・検証し、避難体制の強化等の地域防災計画等の見直しを行い、震災の教訓を生かした防災体制の確立と行政の対応力を強化し、安全・安心のまちづくりに取り組みます。」の赤字部分を追記しました。 【P23】 	杉本委員
5	<ul style="list-style-type: none"> ・7年後よりも先を見据えた計画を策定するためには、近隣の市町との連携が必要になると考える。 ・近隣市町と連携して復興を描いていく必要があると思うので、能登全体の復興計画を考えた上で、羽咋市の復興計画を考えてみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4③「災害時における人的・物的支援に関する災害応援協定等の締結を進めるとともに、国や県その他、近隣の市町と相互支援・連携体制の強化を図ります。」の赤字部分を追記しました。 【P23】 	高山委員 番匠委員
6	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い医療・介護・福祉サービスの新しいあり方に関する取り組みについて記載すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4④「災害時に対応できる医療・介護・福祉サービス（地域包括ケア）の実現のために、関係団体・福祉関係者等との連携による支援体制の整備に向けた取組を推進します。」を追記しました。 【P23】 	三浦委員
7	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートシティ推進のため、自動運転バス、EVカー、EVカーシェアなどの積極的導入を図るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4⑦「道の駅や市役所等へEV充電器の導入促進を図るとともに、EVカーの導入を進め、スマート化の推進と災害時の機能強化を図ります。」を追記しました。 【P23】 	三浦委員